

With コロナ社会におけるひとはくの 新たな価値探究プロジェクト

兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員 高田 知紀
 研究員 生野 賢司
 研究員 衛藤 彬史
 研究員 京極 大助
 主任研究員 山崎 健史
 主任研究員 頼末 武史
 指導主事 安田 英生
 次長 石田 弘明

1. はじめに

兵庫県立人と自然の博物館では、コロナ禍のなかで、ひとはく利用者がどのようなニーズや懸念を抱いているかを明らかにするためのアンケート調査を実施している。本発表では、アンケート調査結果を報告するとともに、With コロナ社会においてひとはくが果たすべき役割や新たなコンテンツ提供の方法について考察する。

兵庫県立人と自然の博物館（以下、ひとはく）は、兵庫県三田市フラワータウンにある自然史系博物館である。「人と自然の共生」をテーマに1992年に設立された。博物館職員の一部は兵庫県立大学自然・環境科学研究所の教員を兼務し、研究活動をベースとして資料の収集や収蔵管理、展示、セミナーなどの生涯学習、シンクタンク活動を展開する。設立当初から「思索し、行動し、提言する博物館」をポリシーとして、研究成果を自然環境の保全や再生、地域づくりへと繋げる試みを実践している。博物館の

表-1 コロナ禍における国・県・ひとはくの対応

	国の対応	兵庫県の対応	ひとはくの対応
2020年1月	1/28 新型コロナウイルス感染症を指定感染症に指定	1/28 警戒本部設置 1/30 有識者会議	
2020年2月	2/25 新型コロナウイルス感染症対策の基本方針決定	2/28 コールセンター設置	2/28 館内イベントの中止決定、館外活動については先方の意向を確認しながら実施・中止を決定
2020年3月	3/13 新型インフルエンザ等対策特措法改正 3/26 特措法に基づく対策本部設置	3/1 県内初の感染者確認 3/3 学校の臨時休業開始 3/26 特措法に基づく対策本部設置	3/6 館外での事業についてはほぼすべて中止、「ひとはくキッズのお遊兵衛」をウェブサイト上で公開することを決定 3/13 館内のハンズオン物品の貸出中止、サロンの情報端末モニターの使用禁止、飲食スペースの利用方法変更 3/20 午後より臨時休館
2020年4月	4/7 緊急事態宣言(兵庫県を含む7都道府県) 4/16 緊急事態宣言(全都道府県、5/6まで)、特別警戒都道府県に13都道府県を指定(兵庫県含む)	4/11 密泊療養施設の開設 4/13 自衛隊へ派遣要請 4/15 施設への休業要請開始	4/10 県立学校と同様に5月6日まで自主事業を自粛、オンラインコンテンツの充実を検討
2020年5月	5/4 緊急事態宣言の延長(5/31まで) 5/14 緊急事態宣言の区域変更(8都道府県に変更) 5/21 緊急事態宣言の区域変更(兵庫県含む3府県が解除) 5/25 緊急事態宣言解除	5/16 施設の休業要請の対象緩和 5/17 新規感染者数0人 5/23 施設の休業要請の対象緩和	5/5 臨時休館延長決定(5/31まで) 5/22 本館を6月2日に再開決定、館内や館周辺で実施する少人数の一般セミナーや館外でのセミナーを再開する方針を決定
2020年6月		6/1 施設の休業要請全解除	6/2 開館 6/26 安全を確保できるセミナー・イベントは原則実施する方針を決定、コロナの感染対策を講じていることを館のホームページで明記、一部ハンズオン展示を再開

施設は、「本館」、「研究・収蔵庫棟」、「ジーンバンク施設と圃場」、「恐竜ラボ」、「エントランスホール」、「ホロンピアホール」から構成されている。本館では9つのセクションからなる常設展示のほか、期間限定の企画展示や市民団体による展示会等を開催している。このほか、化

石クリーニングの様子を見学できる「恐竜ラボ」やさまざまなワークショップが行われる「ひとはくサロン」があり、建物は広大な芝生広場のある「深田公園」と隣接している。

表-1は、新型コロナウイルス感染症対策に関する国、兵庫県、およびひとはくの主な対応の一覧である。ひとはくは、国による緊急事態宣言と兵庫県による対策方針にもとづいて、2020年2月よりイベント・セミナーの中止や展示の一部縮小などの対策をとってきた。さらに3月20日から6月1日までの間は臨時休館の措置を講じた。

図-1は、2019年度と2020年度のひとはく来館者数の月別比較である。2020年3月からコロナ禍を受けての臨時休館に入り、6月に再開した。2020年11月以降は例年程度に回復しているものの、臨時休館明け直後は、夏休み期間の7月、8月でも前年の7割程度になっている。

本報告では、2020年に入ってからひとはくでの多様な議論や対策をふまえて展開した「Withコロナ社会におけるひとはくの新たな価値探究プロジェクト」の成果を報告する。

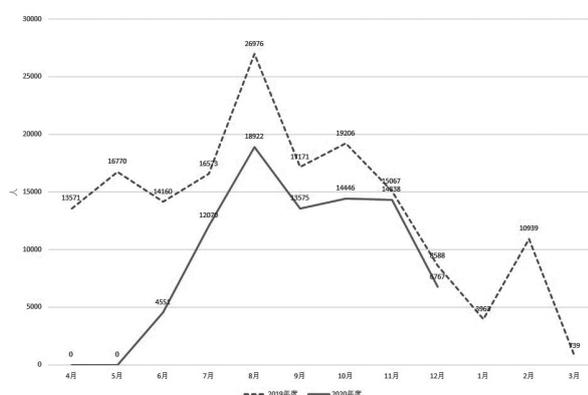


図-1 2019年度と2020年度の来館者数比較

2. コロナ禍の影響に関する来館者アンケート調査

1) アンケート調査プロジェクトの概要

ひとはくでは、他の博物館や多くの施設と同様に、新型コロナウイルスの流行を受けて、展示やセミナー、イベントなどの従来の考え方や運営方法などを再考しなければならなかった。そこで、Withコロナ社会における新たなひとはくのあり方を検討するための基礎材料として、臨時休館期間を経て、開館後にひとはくを利用する人びとの来館の動機やニーズを把握することを目的とした調査プロジェクトを立ち上げることとなった。

この調査プロジェクトのコンセプトは、まずコロナ禍のひとはくへの影響を明らかにするということである。また、ひとはくへの来館者がどうすれば「安心」を感じながら利用することができるかということの根拠資料とする。さらに課題としてあげられるのは、新たなオンラインコンテンツが人びとに届いていないということである。そこで、単なる利用調査にとどめず、今後の広報にもつなげていくこととした。

ひとはくでは、2020年以前から、館内のみならず、館外でのイベント、屋外セミナーを充実させてきた。Withコロナ社会においては、建物内での閉じた空間でのコンテンツ提供だけでなく、積極的に外部空間などを活用した事業が求められる。本調査の結果は、そのような方策の判断資料ともなるものとする。

以上のようなプロジェクトのコンセプトにもとづいて、以下のような枠組みと設問によるアンケート調査を実施した。

調査期間：2020年10月10日～12月27日、対象者：団体利用を除く全来館者（29,828人）

回答数：4,380（12月23日までの結果）、回収率：14.7%

回答方式：アンケート用紙配布およびWeb方式

設問項目

1. ひととく（人と自然の博物館）にはどのくらいの頻度で来館しますか？
2. 本日来館された人数を教えてください。
3. 博物館へ来る際の主な交通手段について教えてください。
4. 本日の来館目的について教えてください。
5. どのエリアの展示に興味がありましたか？
6. あなたがひととくに求めるもの・期待することは何ですか？
7. コロナ禍を受けての外出自粛要請期間中（～5月31日）に行きたかった場所、実際に出かけた場所はどこですか？
8. 新型コロナウイルスへの感染予防対策として実践していることはありますか？
9. 新型コロナウイルスの感染に対する不安はありますか？
- 10.ひととくの新型コロナウイルス感染予防対策について、実施していることを知っていたもの、実際に安心感を得られたものについて教えてください。
- 11.来館してみて、感染予防対策で不安に感じた点はありますか？
- 12.ひととくが提供しているオンラインサービスで、知っているもの、利用しているものについて教えてください。
- 13.今後、再び緊急事態宣言などにより活動自粛となった場合、あなたがひととくに求めるもの・期待することは何ですか？
- 14.あなたの年齢、性別、職業、お住まいの地域について教えてください。
- 15.ひととくに関してご意見・ご希望があれば、ご自由にお書き下さい。

3. アンケート結果の分析

1) 来館者の構成とコロナへの懸念

アンケート回答者の年齢分布（図-2）をみると、10歳以下および30代後半から40代前半が多いことがわかる。ひ

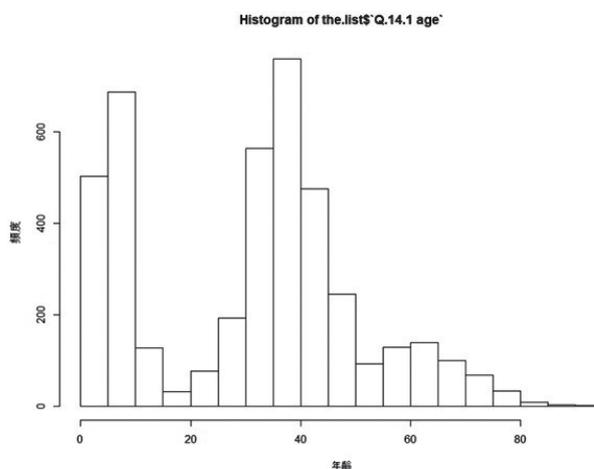


図-2 アンケート回答者の年齢分布

た。「公園」「山、川、海」といった屋外空間以外は、緊急事態宣言下での兵庫県および近隣府県ではほとんどの施設が利用できなかったため、実際に行った人は少なくなっている。

4. まとめ

以上、臨時休館期間を経て、開館後の来館者を対象としたアンケート調査の結果について考察を行った。その要点を次のようにまとめることができる。

まず、アンケート回答者の多くは、感染を不安視しながらも展示の鑑賞を目的に来館している。来館者のニーズにもとづけば、緊急事態宣言下のように活動自粛を余儀なくされる状況では、屋外空間を活用したイベントやオンラインでのセミナーなどを充実させることが望ましい。

コロナ禍を受けて、オンラインコンテンツの拡充は博物館業界全体としても推進されているものの、ターゲットと提供内容を十分に検討し、戦略的に周知していかなければ適切な利用や効果を見込めない。既存のコンテンツに関しては、来館者への積極的な広報（チラシの配付やイベントでの紹介）を展開していく必要がある。新規には、ターゲットを広く設定した「水平型」よりも、特定のトピックを掘り下げる「垂直型」のコンテンツによって、物理的・時間的制約により来館できない人びとを積極的に取り込んでいく戦略も有効であると考えられる。重要なのは、通常の展示やセミナーをオンラインで代替するという発想ではなく、オンラインの特性を活かした新たなターゲットを開拓していく視点である。

ひとはくは三田市という郊外都市に位置し、さらに深田公園に隣接した立地である。その特性を活かしながら、緊急事態宣言の再発令など活動自粛を余儀なくされる社会状況においても継続的にニーズを満たしていくことが可能である。本館が休館したとしても、これまでキャラバン事業による出張展示を展開してきた経験とノウハウを活用し、各地域の公園などのオープンスペースにおいて展示やセミナー企画を実現することもできる。重要なのは、建物内の展示やセミナーといった従来の博物館のあり方だけでなく、地域空間やオンライン配信を活用しながら、どのような社会状況化においても継続的にコンテンツを社会に提供し、社会教育施設としての役割を果たしていくことである。

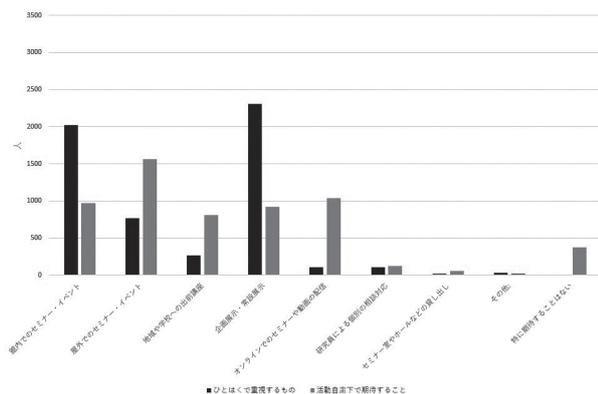


図-9 ひとくはくで重視するもの・活動自粛下で期待すること

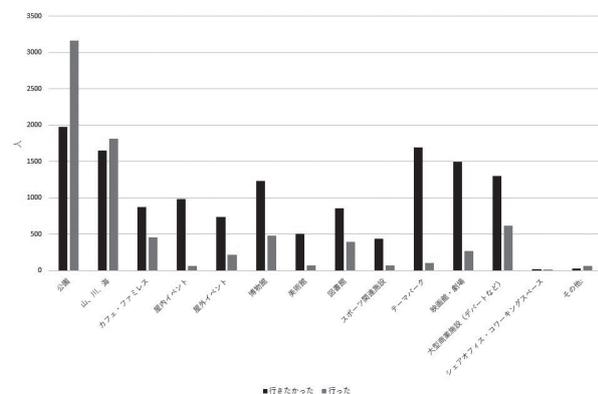


図-10 自粛期間中に行きたかった場所・行った場所